

人

作戰要務



四 受備 一〇一四五

豐橋航空隊 電〇〇三六九

航作概本〇

松島航空隊・七基地 航空部隊

海軍次官、大海參一部、一機動基地、木更津航空基地、
聯合艦隊口、一〇航空艦隊口、
作戰命令着信艦所

機密 〇一〇七二六 電 三分ノ二

發 第三四攻擊隊指揮官

松島空機密 〇一〇一〇〇番電ニ依リ松島空司令出水基地進出迄豐橋
空司令指揮官ヲ代行第三四攻擊隊ハ左ニ依リ出水基地ニ進出スベシ
一 松島空攻擊隊ハ準備出來次等進出（九六式陸攻用消煙排氣管ハ配備
基地ニ準備）

三 豐橋空攻擊隊ハ四月一日九六式陸攻五機一式陸攻四機（本職直率）

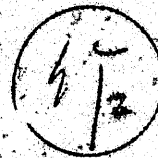
一三〇〇小松基地發配備基地直行
三右ノ外九六式一機（豐橋空飛行長一〇〇〇小松基地發鹿屋基地經由
進出）松島空飛行長一同隊攻擊隊進出行動豫定ヲ定メ報告スベシ。

通二九七九

日一〇々七（七八九五）一KFGB放

齋藤（省田）(1)

4619



四二 受信二一六一一五 譯了二三三四七 電〇一三一八 作 概 電〇一三一九

三〇根戰團概報着信總所

四六警備隊

機密第〇一〇七五五番電 二分ノ二二

774

第四十六警備隊戰團概報第八十八號

三月中敵機ヤヅ島來襲概況(綜合)

一、機種及數
 P B F 一、一四九 P F 四 F 一三、一二六機 P 四 U 一、
 八三機 P 一三八 六機 B 一、二四 六機 B 一、二五 一機 P B
 Y 小一、二七機 P B M 一、二二機 S B 二〇一、二機
 B 二 U 一、二機 合計四二四機

二、來襲日數二十九日(空襲+カリシニ日ハ終日豪雨強風)

三、攻撃目標飛行場機銃及高角砲陣地棧橋建築物農園

通過 一三四七〇 呂一Bラ六(一五七一〇) 三遍 清野・半澤(佐藤)

昭和廿年四月四月

四 戦果

撃墜 T B F 1-1、1機 F 4 F 1-3、3機 F 4 U 1-1、

1機 計五機

撃破

T B F 1-1、1機 F 4 F 1-3、五機以上 F 4 U 1-1、二

機

計十機以上

五 被害

戦死七 戦傷一四 二五耗聯装機銃一基及送信機受信機各

一 破損高角砲彈一四 糧食若干

六 所見

ウルミ島及上空警戒準備ノ爲上旬夜間作業ノミニ依リ辛ウ

シテ第一飛行場ヲ修理巧ニ偽装シアリタル爲一時味方飛行機着

陸迄ニハ幸ニ敵機ノ偵察ノ眼ヲ免レタルモ三日頃發見セラレ爾

後第一飛行場ノ攻撃熾烈化殆下毎日朝夕滑走路ニ被弾從前ニ比シ

一層大ナル被害ヲ受ケタリ當分修理スルモ其ノ時總ハ困難ナルモ

ナリ。

（東通註）本電誤字多シ

人

四 一 受信機一三二〇
 開始一三四一
 丁一三五二
 電〇〇三二一
 作戦特別緊急
 作戦機本〇



- 鹿屋空基地・小岡山司令部
- 淡水空基地
- 吉仁屋空基地

機密第〇一〇九〇五番電

775

發 六三四空司令

宛 一A.P.・五A.P. 參謀長

九〇一統率地へ通信力劣弱受信機一燃料補有量僅少一現
 在二三番二〇發使用スルモ數日ヲ出スシテ基地能力ヲ失フモノト認ム
 當隊並ニ三〇二飛行隊今後使用スルモノトヤバ燃料更ニ四〇〇〇立二
 五番機三〇發程度飛行機ヲシテ急送方特ニ御注意ヲ付度。

通三七七 於一五一〇一六五五(五FABP) 水島(河田)

昭和廿年四月貳日

0924

四 二 譯始一〇七一〇六 譯了二一〇三〇 電〇〇九九七 作概

至急



三二根戰鬪概報着信艦所
二二、二三、二六各根

機密第〇一〇九一一番電 二分ノ二

776

來襲

軍陣地

四、水口方面二十八日、四〇外二延一〇五機、陸陣地一帯及航空
基地周邊ヲ銃爆撃被害施設部工員二名陸軍銃隊戦死二〇〇〇敵
魚雷艇二隻海軍棧橋ヲ照射偵察シ西方ニ去リ二十九日〇七〇〇
引返「水口」島ヨリ北上セリ 三十日一四一〇敵、二〇敵、四〇
三六機來襲海軍本部及附近市街家屋爆撃被害本部半壞人員異狀

市民一死亡民家九戸全焼。
電信課註 本電二分ノ一既配布
道口九八 呂一、ラ十八、一五七一〇KG、三二通

高畑(原)

四一 受信一八七四五

譯了二一五〇 電〇〇五二七

航作 概〇

昭和廿年四月貳日



● 鹿屋 航空基地

機密第〇一〇九二一 番電

777

發 第七二一航空隊宇佐派遣隊指揮官

宛 一 K F G B 長官・第七二一航空隊司令

一 小隊二番機一三七二號一〇八一五宇佐着陸電ヲ待チ「タツ一タ」

ノ敵ヲ搜索セルモ天候不良ノ爲發見シ得ズ

○五〇〇夜戰ノ追跡ヲ受テ攻勢ニ轉ジ○六一〇迄夜戰ト交戦火ヲ吐

キ高度ヲ低下スルヲ認ム本日自設砲鹿屋へ歸投セシム

通五一九 呂一八ケ七一七四六〇 KC 佐通 内田一福 田一



四二 受信一〇三四五 譯了二三三〇 電〇一三七七八 作概

至急

海南南警備府

昭和十四年四月四日

支那方面艦隊	一連支隊	各警備隊	一〇方面艦隊
東京通信隊	機密第一	海軍司令部	三分
機密第一	海軍司令部	第九〇一航空隊	沖繩根
機密第一	海軍司令部	第九〇一航空隊	沖繩根

通報 海南部隊戰鬪概報
 機密第一 海軍司令部 第九〇一航空隊
 三月三十一日

三十日既報ノ外B1二五 七機一一四〇嘉積南東二〇杆支那街爆撃民

家倒壊七〇〇民衆死傷二〇〇名

三三十一日自一〇〇〇至一二〇〇B1二四 一機F4U1四 四機敵潛

ト協同榆林南方三〇杆ニテ器材搭乗員ノ救出ヲ企圖我カ方零戦三機ヲ
 以テ攻撃撃退其ノ後魚雷艇ヲ以テ搜索スルモ手掛ナシ

三一二一五ヨリ約一時間口一二四延十數機ヲ以テ來襲高度四千以上ノ雲

通八八七三 日一〇ケ五(七四六五同)上陸並 大石、才木(横田) 1

上ヨリ港灣南側燦壁

ハ) 戦果ナシ

ハ) 被害 民家倒壊一二全焼八四現在迄ニ判明セル重傷七輕傷土人七五

邦人三九

ハ) ヒ八八 榆林港口附近ニアリシモ被害ナシ

〔電信誤誌〕

本電三分ノ三未着

足

四一

受信一三〇五

一三一〇

電〇〇三五二

就作機水〇

昭和廿年四月貳日

作戰特別緊急

鹿屋航空基地

機動基地航空部隊作戰命令着信機所

作

機

機密第〇一一二二五番電

779

一KFGB天信冠令作第一五號

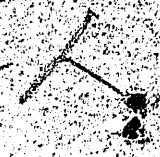
六〇一部隊二一〇部隊七二一部隊(戰爆)ハ進備出來次第發進沖繩

周邊ノ敵空母攻撃スベシ。

通三五六 於十五(七八七五)K(一KFGB)放

水島(松山)

13AF



四 一 受信 二二二〇〇

譯了 二二三〇〇

電 〇〇〇五四五

航作概本

昭和十五年四月五日

緊急

一三空・三一空・三八一空

一三航空艦隊

一航空艦隊 二南遣艦隊 三セレター、ツドウ各空基地
四シヨックジャカルタ空基地 五二三、二八各航戦

機密 〇一 二二六番電 二分ノ一、二

780

發 參謀長

一、當艦隊艦攻艦爆隊攻可動全力三日〇〇〇〇以後成ルベク速ニ臺灣ニ進

出第一航空艦隊司令長官ノ指揮ヲ承ケ天一號作戰ニ從事セシメラル

二、進出豫定左ノ如シ

(1) 第一次三日朝ベナン方面へ一部印度支那へ發進・兵力第十三航空隊

可動全力

(2) 第二次準備出來次氣速ニ發進 兵力第三十一航空隊 艦攻艦爆

可動全力十三空 第一次參加不能 及S特一〇一飛行隊 艦爆全力

大石(山中)

(ハ) 第二次進出ノモノハ速ニ一應昭南ニ集結ノ上陸攻ハ「アエルダワル」

陸攻艦爆ハ「ツドワ」ヨリ發進

(ニ) 第三次現修理中ノモノ完備次第全概

三、今次進出ノ搭乗員(含整備員)及機械中陸攻關係ハ全部K特七〇一A

ニ陸攻艦爆關係ハ全部K二五三Aニ編入及一時轉勤ヲシヌラル(四月

三日附)

緊
急

四
一
受信一八二五二
譯了二、一二三〇
電〇〇九二一
作
概

● 築城航空基地



● 一機動基地航空部隊・七基地航空部隊

機密第〇一一二三四番

781

七〇六空戦闘概報（四月一日）

〇〇三〇ヨリ〇二五〇迄銀河四機沖繩周海敵艦船攻撃ノ爲發進一〇三

〇一機歸着爆撃セズ未ダ歸還セザルモノ二機。

（東通註 本電誤字爲遲延）

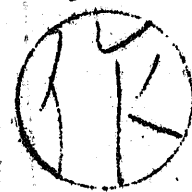
通五三四 呂一Bケ七（七八七五KG）一KFG B放 大塚（土谷）

A

四一 受信一六三〇
譯丁一七五〇
電〇〇四五八
作

概
三十四年四月貳日

● 總無線艦所用共通符號



● 父根戰鬥概報着信位所

機密第〇一一二三七番電

782

發 父島特根司令官

戰鬥概報（三月三十一日）

六一三一四ヨリ五〇分間P五一 一六機來襲飛行場異崎ニ見灣沿岸

ニ銃爆撃一九一二ヨリ一日〇一二五ニ至ル間 次ニ亘リ各大型單

機來襲白星及北地區附近海面ニ投彈

ニ戰果 擊墜P一五一 一機

ニ被害 ナシ

浦三八四 呂一Eケ五（一〇二〇〇KG）父根 齊木一雨 谷

四 一 受信 一五二〇〇 誤丁一六〇〇 電〇〇三九六

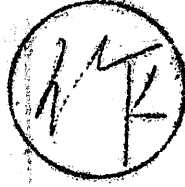
航作

本標

昭和廿年四月貳日

作戰緊急

鹿屋航空基地



第一機動基地航空部隊天作戦部隊作戰命令着信艦所・串良航空基地

機密第〇一一二四八番電

783

一 K F G E 天信電令作第ニ六號

二 一三一部隊ハ本日左ニ依リ薄暮特別攻撃隊攻撃ヲ實施スベシ

(イ) 攻撃實施機數十機(ハ〇番爆裝)

(ロ) 攻撃目標空母又ハ戰艦

三 七六二部隊K二六二ハ薄暮時指揮官所定ニ依リ敵空母ヲ攻撃スベシ

連四一三 呂一Bケ七(九八七五KC) L K F G E 水口(龍田)

四 一 受信 二〇一五
 開始 二〇一五
 了 二二三八
 電 〇〇五五
 五 四七六
 本 〇

第十三航空隊

第一航空隊

東洋 聯合艦隊 十三空 三十一空
 三八一空 第二十八航空隊

機密 第一一五七番電 二分ノ二

參謀長

海軍 大海軍一部長 航空本部總務部長

大海機密 第三二〇二三番電 依ル當機隊飛行機隊ノ台灣方面進出

豫定左ノ如シ

一 第一次天山 九七艦攻六ノ指揮官 牧少佐 九六艦攻一ノ指

揮官 田中大尉 以上計二六 三日早朝ベナソ方面發 海南經由

六二 六三 三一 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

784

日 竹着ノ豫定

三 第二次九七艦攻三 天山四乃至五 九六陸攻七 一式陸攻三乃至

四 九九艦機七（指揮官 山下大尉）以上計二四乃至二六發進豫

定未確定ナルモ六日頃可能ノ見込

三 第三次修理中ノ艦攻陸攻數機完備次第進出

四 今次ノ進出機材搭乗員（含整備員）中陸攻機係ハ全部K特七〇一

飛行隊（飛行隊長 田中大尉）ニ艦攻機係ハK二五三飛行隊（飛

行隊長 牧少佐）ニ編入搭乗員一時聘勤セシメラル（四月三日附）

人

四 一 緊急

受信 二二二〇〇

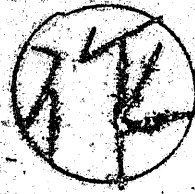
譯了 二三五〇 電 〇一六八三

運作概本

能代

共

符



海上護衛總口。聯合艦隊口。一〇方面艦隊口。
海防一三四

機密第 〇一一三二六番電

發 一 參謀長

宛 南方軍總參謀長

一 海防隊機密第三一一三一五番電返

ヒ八八ノ船團護衛艦西南方面戰鬥ニヨリ二隻消息不明ナルモノ以外
各艦相當ノ損傷ヲ受ケ戰鬥力低下シナル爲香港滯留船護衛内地ニ歸
投整備セシメラルルニ付貴要望ニ應ジ得ズ。

通六六八 天一 〇六二三五 〇一〇通

望月(小澤)

785

昭和廿四年四月四日

人

四一受信 一六五五 譯了 一八一〇 電〇〇四四三

航作概本

了二十一年四月電報一

緊急

〇 第二二聯空

786



● 鹿屋空・串良空
● 鹿屋空基地・佐通

通報 佐世保鎮守府 機密第〇一三五四番電
第五艦隊參謀長

第二二聯合航空隊電令第一五號

佐ノ通速ニ兵力ヲ派遣第五航空艦隊ノ鹿屋基地整備強化作業ニ協
力スベシ

第三艦隊航空隊一〇〇串良航空隊二〇〇。

通四八九 呂一B夕七(七四六〇)佐通 田中(小野田)

8860



一 電信一六四〇

電〇一五四六

東海・本
在

四月四日

共

符

海上護衛總部隊口下・各地在勤武官府

大海參謀部・軍務局・聯合艦隊口
船舶司令部（吳通）

機密第〇一一四二三番電

GEB電令作第四三二號

一 吳鎮及阪警護衛部隊指揮官ハ速ニ瀬戸内海（下關海峡ヲ含ム）ニ於ケル主要航路（掃海水道）ヲ定メ關係各部（海上交通保護機關ノ外運輸本部防衛總司令部船舶司令部ヲ含ム）ニ報告通報シ之ガ徹底ヲ期スベシ（GEB機密第三〇一一五七番電關聯）

二 右以外各鎮各警護衛部隊指揮官ハ成ルベク速ニ前項ニ準ジ當該擔任地域ニ於ケル所要ノ掃海水道泊地ヲ定メ關係ノ向ニ周知セシム

通六五、六六

天二Bケ八

（瀬田）

787



四 一 受信一六二七 歸丁一七〇五 電〇〇四三四 就作 本欄 〇

作戰特別緊急

● 廣 屋 空 基 地



● 一機動基地航空部隊作戰命令着信艦所

機密第〇一一五〇三番電

788

一 K P G B 天信電令作第六號

一 陸軍司偵報ニ依レバ敵空母ノ所在不明

二 K P G B 天信電令作第一五號第十六號及第十七號ニ依ル索敵及攻撃

ヲ取止ム。

通四六六 口一Bヶ七(七八七要IC)一K P G B 放 東野(久保田)

作戰緊急

四 一 受信一七四五
譯始一八一五

譯了一九二五
電〇〇四七七

航 機 〇
本 〇

二十一年四月貳日

作

〇

一機動基地航空部隊天作戦部隊作戰命令着信處所

789

機密第〇一一五四八番電

第七基地航空部隊電令作第二二一號

一 天空襲部隊偵察隊ニ紫電六機ヲ加フ

二 第七五二航空隊司令ハ紫電可動全力ヲ慮屋ニ進出爾余ノ搭乗員並ニ
整備員ヲ慮屋ニ空中輸送一一部隊指揮官ノ指揮下ニ入ラシムベシ

通三二八 呂一〇分七(七八七五)一KFG 放 門奈(土谷)

人

四一 受信一八〇三〇九 譯了一九四〇 電〇〇四九二 航作概本〇

緊急

鹿屋航空基地

聯合艦隊口・一〇一航空戦隊

木更津航空基地



機密第〇一一六一五番

790

發 第三航空艦隊參謀長

第七基地航空部隊電令作第二二一號關聯

索電搭乗員整備員及物件(四〇名ノ豫定)ノ鹿屋進出用トシテ
空輸機ヲ木更津ニ派遣ヒシノラレ度

通五一三 呂一Bケ七 (一〇二六五K) 五AFH

三須(阿波)

天

四二 受信〇〇九〇〇七 譯了二〇二〇 電〇〇九〇八 作 概

至 急

作

一護衛艦隊P。一〇二戰隊A
支那方面艦隊口。上根P。九三一空（佐伯航空基地）
通報表示 海上護衛總口

機密第〇一一六一七番電

發 第九三一空司令

戰 戰聞概報

本一日一四二〇敵戰聞機（P五二）四機戊基地ニ來襲當隊銃爆撃一三耗
機銃二門ヲ以テ應戰一四三五敵機避退戰果ナシ被害九七式艦攻四機炎上
一機被彈大破一機被彈小破（修理可能）負傷者整備
三別

通八八八 天二Bケ六（B）具 坂 本（小林）

791

天
人

四 一 受信二八五〇 譯了〇九一五 電〇〇八六二 謀 通

至 急 一 〇 通 信 隊

● 南支那海方面特情着信艦所

機密第〇一六三〇番電

792

旬報 (三月下旬)

一 南支那海 (北緯一五度以南) 出現潜水艦一五ニレテ二十九日以降

アナンパス諸島附近海面ニ五隻測定セルハ特異ナリ

二 二十七日以降ザンボアンガ方面通信代行艦連日出現重要通信多數

發信&アリ

三 サン ホセ所屬機哨戒狀況著變ヲ認メズ。

通六七二 呂一ヨケ七 (六二三五KC) 一〇通 森 (三五)

63 kg

人

四
一
受信一七四六
開始〇五二〇
譯了〇七一〇
電〇一四一六
作
概〇

六
三
警



聯合艦隊・第四艦隊

マーシャル方面防備部隊

機密第〇一一六三〇番電

P
B 戦闘概報(四月一日)

本日重壕戦ヲ認メヌ。

昭和廿年四月四日

793

通五二六 呂二B (一七六三〇K) 四通 小 森 (吉 田)

天

四二 受信 〇〇八五〇五 譯始 〇九三〇 電 〇〇一〇〇〇二 作 櫛

高雄警備府

東京通信隊、聯合艦隊口



南西方面艦隊口、支那方面艦隊口、佐世保鎮守府、一航空艦隊口、二道支艦隊、臺灣航空隊

機密 〇一一七三八番電

二分ノ下二

三月三十一日敵機來襲狀況

一〇七〇〇P一四七 二機P一五一 二機南方ヨリ侵入屏東附近銃

撃後南方ニ脱去ス

三一二〇〇P一三八 一〇機導鼻ヨリ東海岸ヲ北上北方ニ脱去ス

三一一五〇B一三四 中機P一三八 六機南ヨリ侵入枋山附近爆撃

四一二四〇B一三四 一三機P一三八 六機基隆港灣 街爆撃

五一二〇〇P一四〇〇迄P一三八 二機臺中防備施設ヲ偵察

通八三〇 呂一〇ラ十八一四七〇五 通 馬場 (馬田) (1)

方一四〇〇ワリ一五三〇迄B一三四一機東海岸ヲ哨戒

中戦果

ナシ

八被害

棟

高雄州潮洲間ニ於テ全焼家屋五一死者四重傷七(民間)ノ外六七。

0947

支根

受傳二〇〇二〇〇
丁二二四〇
〇〇〇五三三
作 概〇

緊急 符



東 通・横 運
聯合 隊 口

機密第〇一一八二六番電

發 父島根司令官

宛 横須賀鎮守府參謀長

受報者 大海參一部長

鑛島陸軍兵力ハ軍事郵便所長以下(將校一名兵二名)ヲ殘シ全部父島
轉送ノコトトナリタルニ付警備トノ關係モアリ海軍部隊ハ全部引揚ヲ
適當ト思料スルモ更メテ實見通知ヲ得度。

六二二 呂一〇() 横須賀 森 (吉 田)

昭和四年四月五日

795

昭和十四年四月四日

四二 受信開始一七三〇六 譯了二〇三〇 電〇一三八八 作擬
電〇一三八九

作戰緊急 吳 鎮



東京通信隊 海陸總口・聯合艦隊口・各鎮守府・大阪警備府

機密第〇一一八三一番電 二分ノ二

796

宛 總長 大臣

戰術概報 (三月三十一日)

B一二九 三機又ハ二機編隊ニテ五十六機〇〇〇〇豐後水道ヨリ
廣島灣ニ進入後雷ヲ敷設シ〇一一〇避退セリ敷設範圍廣島能美島
倉嶺島和島神島二神島八代島ニテ圍ム廣島灣西部海面ニシテ四月
一日正午迄ニ自爆セシモノ約三十個敵島南部基地ニ落下セシモノ
潛艇ニテ調査ノ結果音響機雷ナル事判明セリ又〇一三〇頃別ノ敷
雷八一九 呂一〇七七 (B) 吳 鎮 石川 日野原 (細川) (一)

0949

機中津ヨリ宇部ニ至ル海面下關海峡東口附近及佐伯灣口附近ニ侵入中津ヨリ宇部ニ至ル海面ニ機雷ヲ敷設セリ佐伯附近ニハ敷設ノ事實ヲ認メズ爆發セシモノナシ舟艇及飛行機（發音彈投下）ヲ以テ極力掃海中四月七日頃主航路ノ掃海修了ノ見込。

（東通註 本電同台セ同文電照再送ノ爲遲延）

二

人

緊急

四 二一 受信二三三八 譯始二二一〇八 譯了二三一〇 電〇一三三五 作概〇 抗本

作

● 一 護衛艦隊 〇 海護總口

● 九〇一航空隊 △

機密第〇一一九〇番電 三分ノ三

(一) 菊丸船團 (ヒハハ) 寶昭丸 北上後各基地殘留員概數淡水一

〇〇高雄四〇馬公二〇〇香港廈門二〇〇 三亞三〇〇東港三〇〇

(東港基地保管ノ爲轉進セシメズ)

(二) 轉進基地員數上海方面一三〇〇博多大村方面七〇〇

三 殘留基地員ニ對シ船便至急御手配アリ度。

電信課註 本電三分ノ六ニ配布 東通註 本電誤字多キ爲延布

適七六四 呂一〇分七 (吳通 小島 (細川)

昭和廿四年四月四日

797

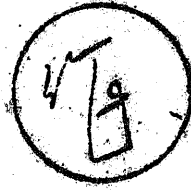
作戰特別緊急

四一受信 二二三〇
 譯始 二二〇五
 了 二三五〇
 電 〇〇五八一
 〇〇五八二
 航作 概
 本〇

昭和三十年 四月貳日

● 鹿屋航空基地

● 第一機動基地航空部隊天作戦部隊作戰命令着信繼所



機密第〇一二〇四八番電 二分ノ二

798

一 K F G B 天電令作第二號

一 當部隊兵力部署中十二聯隊及十一聯空部隊ヲ除キ左ヲ追加ス

(區分指揮官兵力主要任務ノ順)

第八基地航空部隊一〇 A F 長官 八 F G B 敵輸送船團攻撃

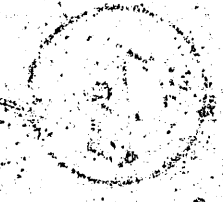
二 八 F G B 指揮官ハ鹿屋ニ進出スベシ

通七 一六、六九六 呂一 B ケ七 (七八七五 IC) 一 K F G B 放

野木、加藤 (小野田) 1

2-1260

0221



三、八、D、G、B 兵力ノ展開基地（既令ノモノヲ除ク）ヲ四隊出水 艦爆隊
 陸國分又ノ築城 艦攻隊串良又ノ宇佐 艦爆隊戰團根除笠ノ原ト
 豫定ス

四、八、D、G、B 司令部ノ鹿屋進出迄本職實用基地航空兵力ヲ直率。

095/3

四 一 受信 〇八〇四 〇五 譯了 〇九〇〇 電 〇〇九〇二 作 概

至 急



支那方面艦隊

東 通・一護衛艦隊 九〇一空

揚子江部隊

機密第 〇一二一四二番電

受報者 海軍司令部 海上護衛總司令部 大海參一部長
海方面部隊戰速報 (第一號)

一 自一四一〇至一四三〇 P 一五一、六機戊基地及大場鎮飛行場ニ來襲ス

二 戰果 擊破二
三 被害

(イ) 海軍戊基地第九三一航空隊九七式艦攻四機燒失重傷一 輕傷二
第九〇一航空隊一式陸攻一機燒失重傷二名 輕傷二名

(ロ) 通信部隊大場鎮戰爆練計數機燒失
(ハ) 其ノ他被害輕微

通六五四 呂一五七七 (四〇四五) 上陸

鈴木 (川口)

799

↑
人

四
二
緊急

受信開始
〇〇五三〇〇

譯了
〇八四〇
電
〇〇九九八

航作
本〇



○(松)

松島航空隊・小松航空隊

七基地航空部隊各戸下・豊橋航空隊

出水航空基地

機密第〇一二二五〇番電

三分ノ一

800

發 豊空飛行長

出水基地調査中

一、飛行場滑走面一帯稍荒廢シアルモ注意ノ上使用セバ一式陸攻ノ發

着可能飛行場一部隅陵ニ付要注意丁型ナルヲ以テ着陸承知ヲ得度

ニ燃彈及機銃彈ナシ。
一、電信課註 本電二分ノ二、三既配布

通九三一
出 B 分七 (四七四二五) (五 A P 口 東野 (杉本)

四二

受信開始 〇〇五五七〇

譯了 〇五五〇

電 〇〇〇七五三
電 〇〇〇七五四

航作 概 〇

昭和廿年四月五日

緊急

出水航空基地

松島航空基地、小松航空基地

豊橋航空隊、七基地航空部隊各戸

機密第〇一二二五〇番電 三分ノ三



三、尙攻撃隊ノ收容ニ充分ナル寝具ハ基地ニテ準備ノコトニ協議済但シ
食器配食器携行ヲ要ス

四、進出要領 小編隊機松山基地上空通過時九州方面空襲ノ有無ヲ確認

ノ上(赤中ニ白十字揭示)大分熊本附近ヲ通過一七〇〇以後着陸ス
ル如ク計畫サレ度

其ノ他

(イ) 消焰排氣管(九六式陸攻)ノ搭載方目下大村ニ交渉中

(ロ) 明日〇六〇〇ヨリ當基地機密第〇一二〇〇番電通差支チケレ
バ電波ニ配員ノ上主トシテ警報ニ注意サレ度

尙明日九州方面ニ對スル敵機動部隊ノ來襲嚴戒ヲ要ス情況ニアリ

電信課註 本電三分ノ一未着

九三三・九二八 天一日分七(四七四二五〇)五△▽□ 半澤・菅原(ハンダワ)

801